

第1 今年度の取組と自己評価

1 伸びる学習指導

(1) 取組

基礎・基本の定着を図り、学習意欲を高めることを目指し、基礎から発展までのきめ細かな学習指導を少人数・習熟度別授業等を有効に活用し、個に応じた指導を丁寧に行う。

(2) 成果

夏季休業期間に講習を22講座開講した。

英語検定2級には17名を合格させることができた。

日本語能力検定N3以上に、在京外国人生徒41名が合格した。

進路決定率93%

学校評価アンケートの生徒授業満足度の肯定的評価は85%となり、昨年度の82%を上回った。

在京外国人生徒の取り出し授業や補習等による対応を充実させることができた。

図書館の年間生徒貸出数2210冊となり、昨年度の1708冊を大きく上回った。

(3) 自己評価

生徒の授業満足度の肯定的回答は全体で81%であり、昨年度の82%よりも若干減少した。保護者の肯定的回答は、昨年度の75%から増加し、79%となった。課題や小テストを課すことによって、家庭学習時間の確保を目指した。家庭学習に積極的に取り組んでいる生徒は、昨年度47%、今年度48%であった。今後も引き続き家庭学習時間増加の方策が考えていく。

2 かなう進路指導

(1) 取組

3年間のキャリア教育全体計画をもとに学年ごとの指導の重点を設定し、丁寧な進路指導を行った。

(2) 成果

1年生から体験的活動、課題学習、ガイダンスを通して、生徒が自ら進路について主体的に取り組む指導を行った。保護者対象進路ガイダンス、推薦入試や就職に向けた模擬面接、面接週間の設定、実力テストの結果分析を行い、適切な進路指導を行った。3学年生徒の卒業時の進路決定者は91%であった。多様な生徒の進路に対応した進路指導の充実と進学実績の向上を図るために、進路部と学年が連携し継続的に進路説明会を実施した。外部講師による進路ガイダンス、模試面接等も実施した。看護、介護、教育、保育関係への上級学校への進学者は昨年度の41名を上回り、48名であった。就職者5名のうち、2名が公務員に合格した。

(3) 自己評価

進路部と各学年が協力し、3年間の指導計画に沿った指導を行うことが出来た。「学校は生徒の適性や進路希望に応じた指導を積極的に行っている」という問いに対して82%の生徒が肯定的な回答をしている。保護者の肯定的回答は66%から73%に増加した。今後も生徒自身が主体的に進路を考え選択する能力や望ましい勤労観や職業観を身につけ、自立できるキャリア教育を推進していくことが重要である。

また、進路部を中心とし、拡大進路部会を開くなど各学年と協調して、意図的・計画的に進路指導を実施することができた。今年度の大学合格者数は、延べ266名で昨年度は8クラスであったが274名であった。

向上した。その内訳としては、指定校による学校推薦が23%、公募による学校推薦が3%、総合型選抜が26%となった。今後、総合型選抜による進学が増加することが想定でき、計画的な探究学習への取り組みが不可欠となる。

3 安心の生活指導

(1) 取組

家庭及び地域と連携して、生徒が安心して生活できるような生活指導を行う。

(1) 成果

遅刻、服装などの指導を計画的・継続的に実施した。毎朝学校付近の交差点で生徒部教員を中心として自転車指導を含めた交通安全指導を実施した。登下校の自転車運転のマナー・モラル指導の徹底を図った。年間を通して、いじめは確認できなかったが、毎学期いじめアンケート実施した。

(2) 自己評価

生活指導部の教員だけではなく、その他の多くの教職員が日頃から丁寧な生活指導行ってきたが、生活指導に対して昨年度 86%の生徒が肯定的な回答をしていたが、今年度は 74%に低下した。校則が厳しいと思っている生徒が多いと推測できる。今後も思いやりと規範意識を育成し、登下校の安全指導等も継続していく。遅刻、服装などの指導は、生徒部を中心に教員が協調して行い、一定の成果をあげた。

4 燃える学校行事

(1) 取組

協働・協調・自立の精神を養い、自尊感情を高めるような学校行事を実施する。

(2) 成果

体育祭、文化祭、後夜祭、合唱コンクール、修学旅行を実施することができた。ダンス部、体操部、軽音楽部、演劇部でクリスマス公演などを実施した。

(3) 自己評価

学校行事への生徒の肯定的回答は昨年の 80%から 82%に向上した。今後も協働・自律・自由と責任の精神を養い、自己肯定感の向上に繋げていく。さらに行事に関する達成感を向上させ、自己肯定感を高めるように運営方法等を検討していく。

5 輝く部活動

(1) 取組

心身を鍛え、集団生活における帰属意識や連帯・協調の精神を養う部活動を展開する。

(2) 成果

全学年を通じた部活動加入率は 91%であった。主な結果は以下の通り。

サッカー部 インターハイ予選 ブロック決勝進出

女子ハンドボール部 春季都大会 ベスト8、インターハイ予選 ベスト8、
国公立大会 優勝、秋季大会 ベスト8、冬季大会 優勝

体操部 男子3年大会 団体総合2位 個人総合2位、6位

男子新人大会 団体総合5位 2年の部個人総合2位・3位

女子1年大会 団体総合4位 個人総合6位

女子秋季大会 団体総合4位 個人総合3位

女子バスケットボール部 関東高等学校女子バスケットボール選手権大会東京都予選4回戦進出
全国高等学校バスケットボール選手権大会東京都予選 4回戦進出
第42回東京都立女子バスケットボール研修大会 ブロック準優勝
新人大会 4回戦進出

男子硬式テニス部 第69回 WISE CUP ダブルス3位、第70回 WISE CUP シングルスベスト8
第62回新人テニス選手権大会シングルス4回戦進出

合唱部 NHK 全国学校音楽コンクール東京都本選 銀賞受賞

全日本合唱コンクール 全国大会 銀賞受賞

吹奏楽部 東京都吹奏楽コンクール 銀賞受賞、東京都アンサンブルコンテスト 銅賞受賞

軽音楽部 全国高校軽音部大会 スニーカーエイジズ オリジナルソング部門グランプリ受賞

写真部 東京都高等学校文化祭写真部門 中央大会 1作品 入選

(3) 自己評価

部活動に関する生徒の肯定的な回答は、昨年 76%で今年度は 74%であった。部活動は本校の特徴の一つであり、各教員がよく努力し生徒への指導を行っている。結果報告などの対外的なアピールはホームページを活用するなどして発信していく。

6 健康づくりと体力向上・防災教育

(1) 取組

主体的で適切な健康観を育成し、総合的な生徒の基礎体力の向上を図る。
地域と連携した防災訓練や年間4回の避難訓練を実施し、防災教育の推進を図る。

(2) 成果

スクールカウンセラーによる相談活動を行い、教育相談を充実させた。地域と連携した防災訓練や年間4回の避難訓練を実施した。

(3) 自己評価

スクールカウンセラー、養護教諭、担任、生徒部、管理職と連携をとりながら、生徒の悩みや問題行についての解決に向けた対策をとることができた。地域と連携した防災訓練を近隣の消防署協力して行った。

7 地域連携

(1) 取組

近隣地域の諸機関・住民との交流活動を積極的に行い、地域との連携協力体制を確立する。

(2) 成果

学校説明会は事前予約制で2210名が参加した。近隣地域主催の西文まつり等の地域行事にダンス部が参加し交流を深めた。

(3) 自己評価

府中市主催の芸術祭に合唱部が参加するなどし、近隣地域の行事等に参加することができた。また、例年、吹奏楽部と合唱部が近隣のホールを借りて、定期演奏会を開催している。

8 学校運営・その他

(1) 取組

全教職員が一丸となって生徒・保護者・地域住民から信頼される学校運営を行う。
海外学校間交流推進校の事業に取り組み、自己肯定感の向上に繋げる。

(2) 成果

海外学校間交流推進校

多文化理解の推進の一環として、マレーシア大使館と合唱部と教職員が交流を図った。

(3) 自己評価

第76回全日本合唱コンクール全国大会に東京代表として出場し、銀賞を受賞することができた。

重点目標と本年度の数値

- 1 予習・復習等を前提とした授業により家庭での学習に積極的に取り組んでいるとする生徒全体の割合→48% (3年生は59%)
- 2 生徒が本に親しむ環境を整備し、図書館の本の年間貸出数→2210冊
- 3 進路部と学年が連携した進路指導により生徒の進路指導満足度→82%
- 4 進路指導により卒業時の進路決定率→93%
- 5 地域中学校や地域住民の文化祭への来校者数→2247人、昨年度の1519人を大きく上回る。
- 6 部活動加入率。→91.3%
- 7 学力による選抜の入学者選抜倍率。→1.20倍

第3 次年度以降の課題と対応策

1 伸びる学習指導

家庭学習時間の増加、定着を図る。在京外国人生徒の支援を拡大し、日本語能力の向上を図る。
少人数授業、習熟度別授業を有効に活用し、学力の基礎・基本の定着を図る。予習復習を前提とした授業を行うとともに、適切な課題を計画的に課して、家庭学習時間の増加を図る。日本語指導員を増やし、在京外国人生徒を学習面で支援していく。

2 かなう進路指導

生徒が主体的に進路を考え、選択する能力や望ましい職業観の育成。進路指導部と学年担任の連絡会を定期的で開催し、情報の共有化を図る。生徒の進路希望を実現するために、夏季休業中の講座

を充実させる。就職希望者の指導の充実を図り、進路未決定者の減少させる。

3 安心の生活指導

安心、安全な学習環境の維持と生徒の規範意識を高める生活指導を行い、社会に適応できるモラル・マナーの育成をする。生徒の交通安全意識を高めるために、毎朝の学校付近の交差点で指導を継続的に行う。

4 学校運営

サービス事故0、体罰の防止0を継続していく。ライフ・ワーク・バランスの推進。サービス事故撲滅に向けて、管理職が適切な機会を捉えて、教職員への啓発及び研修を実施する。